

フジバカマの花畑

初秋に咲く最も香りのよい花の咲くハーブの 1 つは、フジバカマ（*Eupatorium japonicum*）で、別名「サロワート」または「フレグラント・イウパトリウム」としても知られています。秋を代表する七草の一つとされ、日本の美術や詩などにも多く描かれています。1000 年前、フジバカマは香り袋や香りのするお風呂や洗髪、お香として人気でした。ドライフラワーは、多くの一般的な病気を治療するための漢方薬としても使用されていました。

絶滅寸前種の花

現在、フジバカマは京都府では絶滅寸前種に指定されており、生息地の喪失によって野生で出会えることほとんどありません。大原野では、9 月下旬から 10 月上旬に訪れる観光客に楽しんでもらうために、小さな畑で特別に栽培されています。その区画にはフジバカマに加えて、萩、オミナエシ、檜扇、ナデシコ、川緑、水葵、およびキキョウが植えられています。

フジバカマとアサギマダラ

フジバカマが咲くと、花にはさまざまな昆虫が集まります。日本に生息する唯一の渡り蝶であるアサギマダラ（*Parantica sita*）は、特にフジバカマの花の蜜を好みます。秋になると、蝶は北海道などの涼しい場所を出発し、途中、花畑などを「休憩場所」として 1500～2000 キロ南へ移動します。大きく色鮮やかな蝶であるアサギマダラがフジバカマの淡い藤色の花によく映えるため、多くの人が写真を撮りたいと考えています。

フジバカマ祭り

秋分の日（9 月 22 日または 23 日）に近い週末、大原野ではフジバカマ祭りが開催されます。この祭りでは、フジバカマの香り袋、よもぎ団子、その他の地元の特産品などを販売する小さな屋台が並びます。